

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災 維持管理 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）		
技術名称	KPブロック	担当部署	福岡設計技術課
NETIS登録番号	-	担当者	川添 謙一
社名等	インフラテック株式会社	電話番号	092-474-2450
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>従来の間知ブロック積み擁壁等の代わりに、安全性・施工性・信頼性の高い製品を供給する事を目的として開発いたしました。</p> <p>2. 技術の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1個が1m²と大型なので、工期は大幅に短縮され、作業の省力化が出来ます。 ・基礎部をプレキャスト化する事により、施工労力を軽減しました。 ・自立式ブロックのため、施工作业が安全に行えます。 ・裏壁があるため、裏型枠は必要ありません。 ・ブロック表面が擬石模様なので、自然と調和が図れます。 ・胴込コンクリートが一体化するため、強固な練り積み擁壁を形成できます。 <p>3. 技術の効果</p> <p>大型化により、施工性が向上し、大幅な工期短縮が実現します。また、控え長さが350mm、450mm、500mmのラインナップがあるため、使用条件に合わせて対応が可能です。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>法勾配 1:0.3、1:0.4、1:0.5 控え長さ 350mm、450mm、500mm</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 1 件（九州 1件、九州以外 0件） 自治体 37 件（九州 24件、九州以外 13件） 民間 8 件（九州 5件、九州以外 3件）</p>		

6. 写真・図・表

① 掘削および基礎工

- 掘削深さは根入れ深さ、基礎砕石、敷モルタル厚さを考慮し、掘削は基礎地盤を乱さないよう行う。
- 基礎の形状寸法は下表を標準とする。

呼び名	基礎寸法		h1	h2
	B1	B2		
350型	900	600	200	30
450型	600	700		
500型	650	750		

② 基礎ブロック据付工

- 基礎ブロック据付精度の良否で工事仕上り(スピード、高率集入)が決定するので、設計図書通り慎重、且つ適宜に行う。
- カーブ施工は上部本体ブロックとの関連性を良く考え③を参考に行う。
- 敷設後は基礎ブロック間孔部にコンクリートを2/3程度充填し、一体化を計る。

③ 本体ブロック据付工

- 基礎ブロック上に本体ブロックを設置する際の敷モルタルは不要。
- 本体ブロックを所定の位置にセットすると、下段ブロック上部の突起が作用し、計画壁面勾配を維持し自立する。
- ブロック上部の突起は、その上段のブロックと横方向に噛み合わせ構造となっているため、枚数の際所定の位置に簡単にセット出来る。
- 裏込め工および締めコンクリートは一般ごとに行い、ブロック高さの1/2～2/3程度とする。

④ ブロックの吊り上げ方法

1. 基礎ブロック

2. 本体ブロック

- 排水工は水抜きパイプを2～3mに一箇所設ける。ただし河川護岸または擁壁前面に水位がある場合は設けない。
- 水抜きパイプの取り付けは、本体ブロック前・後壁底部下方に一部厚みを切り欠いた残りの部分をハンマー等で打ち抜き、パイプをセットする。

図1 施工方法

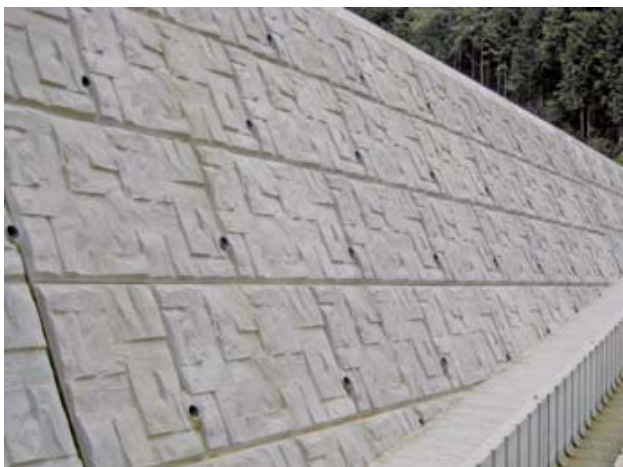


写真1 施工現場



写真2 施工現場